



令和2年9月23日  
坂東地域農業改良普及センター 発行  
Tel : 0297-34-2134  
Fax : 0297-34-3291



HPは  
こちら

## 水稲生産におけるドローン活用検討会を開催しました。

8月11日、水稲生産におけるドローン活用検討会を、五霞町の(有)シャリー現地ほ場で開催しました。当日は、生産者及び関係機関で合計44名が参加しました。

はじめに普及センターから、(有)シャリーにおけるドローンによる湛水直播栽培について紹介し、移植栽培と比較して、作業にかかる人員と時間を削減できたことを説明しました。SkyFarm茨城によるドローンの操作実演も行い、参加者は、ドローンが水稲生産の省力化に効果的であることを実感しました。ドローンによる湛水直播栽培の生育は良好で、移植栽培と同等の収量が得られることが期待されます。



また、「鉄黒コート種子」(株)華玉)は、従来の鉄コーティング種子よりも、コーティング後の発熱がなく、催芽処理した粃にコーティングできます。「鉄黒コート種子」を播種したほ場の生育は良好であったことから、出芽・苗立ちの安定化に効果的であり、湛水直播栽培における収量安定化が期待できました。

最後に、普及センターから、「ふくまる」にイネ縞葉枯病抵抗性を付与した「ひたちIL3号」の特性と生育状況について説明しました。

普及センターでは、新型コロナウイルス感染症拡大防止に配慮しつつ管内の水稲生産の省力化、効率化に向けた取組を支援していきます。

## 坂東地域アグリセミナー第2回「病害虫防除講座」を開催しました。

8月21日、坂東普及センター主催により、「病害虫防除講座」を開催し、管内の新規就農者・若手農業者8名が受講しました。

まず、①病害虫防除の基礎、②農薬の適正使用について、③センチュウについての3つのテーマで講義を行いました。質疑応答では受講生から、農薬の混用事例や、土壌燻蒸剤の効果が見込める深さについて質問がありました。

講義後のワークショップでは、①自身の圃場で発生した病害虫の症状及び

特徴、②防除対策について情報交換し、活発な議論が交わされました。受講生からは「農薬や病害虫の防除方法について学ぶことができた」、「本講義で使用したテキストを大切に保管し、定期的に見返して知識を深めたい」等の声がありました。

普及センターでは、今後も栽培技術や先進事例、経営管理等のセミナーを開催し、新規就農者の支援に努めていきます。



# 水稲収穫後もイネ縞葉枯病の対策を行いましょ。

## イネ縞葉枯病とは？

病源となるウイルスを保毒したヒメトビウンカによって媒介されるウイルス病です。

発病すると、葉に黄白色から黄緑色の縞状の紋斑を生じます。また、水稲の生育初期に発病すると新葉が垂れ下がってやがて枯死し、出穂期に発病すると穂が出すくんで籾が奇形や不稔となります。また、被害が大きい場合には減収となります。発病してから治療することができません。今年度は育苗箱施用や本田散布の実施等により、坂東地域における発生は昨年よりも低くなりましたが、収穫後も引き続き、対策が必要となります。

↑ ゆうれい症状を呈したひこばえ



## 収穫後の防除対策について

収穫後のひこばえ（再生稲）がウイルスの伝染源となる可能性があります。感染したひこばえも生育期と同様の病徴を示します。次年度、本田での発生を抑えるため、以下の対策に取り組みましょう。

### 1. 収穫後の耕起の早期実施

ひこばえはヒメトビウンカの生息・越冬場所となり、翌年の病気の発生源になります。また、水田の耕起時期は早いほど、ヒメトビウンカの越冬量の低減に有効であると考えられています。

収穫後は、なるべく早く、**遅くとも年内に**すき込みを行いましょ。

### 2. 冬期の畦畔除草

9月下旬から10月にかけて産卵・ふ化したヒメトビウンカは、ひこばえ以外に畦畔のイネ科雑草でも越冬します。越冬場所の草刈りを行い、ヒメトビウンカの数減らしましょ。

## ネギハモグリバエの新系統に注意しましょ。

平成30年10月に、ネギハモグリバエにより秋冬ネギの葉組織が食い尽くされて白化する被害が県内で確認され、従来の系統（A系統）とは異なるB系統であることが判明しました。



## 新系統（B系統）における形態の特徴

- ①成虫：体長は2mm程度で、黄色をベース色に胸部、腹部が黒くなります。従来の系統（A系統）との識別は困難です。
- ②幼虫：ウジ虫状で、成長すると4mm程度の大きさになります。



## 新系統（B系統）における被害の特徴

- ①1葉あたりの幼虫数が従来の系統よりも多く、葉の内部に潜り込んで集中的に葉肉を加害します。
- ②白線状の食害痕同士が癒合し、葉全体が白化したようになります。

近年、当管内では、9月中旬から秋冬ネギで被害が目立ちます。圃場をよく観察し、防除対策に努めてください。対策方法等のご相談は、普及センターまでお問い合わせください。

## 10月 土壌診断実施日のお知らせ

10月7日（水）、10月21日（水）の2回を予定しております。

- 個人の農家の方が対象です。
- 受け付けは先着順となりますので、お早めにお持ちください。電話等での予約は行っておりません。
- 1回の診断で50点までの分析となります。超えた場合には次回の診断日となります。
- **1人あたり5点以内**の持ち込みでお願いします。

## 編集後記

7月の長雨、8月の高温少雨で作物にも身体にも辛かった夏となりましたね。今年もあと残り3か月、引き続き一緒に頑張りましょ。（栗原）

